

タイトル「**2021年度危機管理学部(公開用_コロナ対策版)**」、フォルダ「**危機管理学部**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	RMGT4612		
科目名	危機管理特殊研究 2		
担当教員	茂田 忠良		
対象学年	3年,4年	開講学期	後期
曜日・時限	金 2		
講義室	2301	単位区分	選必
授業形態	演習	単位数	2
科目大分類	専門		
科目中分類	専門統合		
科目小分類	専門統合・演習		
科目の位置付け（開発能力）	■ D Pコード：学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 DP1－E 【学識・専門技能】専門分野にかかる理論知と実践知を獲得し 利用することができる。 DP4－F 【探究力・課題解決力】問を設定し又は論点を特定し、それに対する答・結論・判断を合理的に導くために、論拠の収集と分析を体系的に行うとともに、オープンエンドな問題・課題に答える ための方略をデザインし、検証し実行することができる。 DP3－G 【状況把握力・判断力】自らの置かれた状況、及び自己が帰属する 集団の内外の状況を的確に把握し、適切に対応することができる。 DP4－I 【理解力・分析力】文章表現、数値データを適切に扱いつつ、情報の収集と取捨選択、分析と加工を有効 かつ円滑に行い、課題の解決につなげることができる。 DP6－K 【表現力・対話力】文章及び口頭で、自らの考えを的確に表現 し、他者に過不足なく伝達することができる。 DP7－L 【協働力・牽引力】集団的に課題解決を行う際に、自己の立場 や責任を認識し、互いに集団の連帯を強めることができる。 DP8－M 【省察力】知識と経験とを関連付け学修成果を活用可 能な状態に高めるとともに、これを新しく複雑な状況に転移させ課題解決につなげる ことができる。 ■ CRコード：学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック（CR）との関連 E1 学識と専門技能（10%） F1 探求と論拠（15%） G1 状況把握（10%） I1 理解・分析と読解（10%） K1 ライティング・コミュニケーション（15%） K2 オーラル・コミュニケーション（15%） L1 チームワーク（15%） M1 統合的・応用的学修（10%）		
教員の実務経験	警察庁採用 I 種（現総合職）職員として34年余の警察官や公務員としての実務経験を有し、その中で、県警察本部長などの立場で様々な危機的状況、謂わば「修羅場」を経験してきました。そこで、警察官を職業の選択肢としている学生を念頭に、体験を踏まえて警察業務を教示すると共に、危機的状況における対処で最も重要な「即座の判断力」を養成するべく、教授します。（第2、6、7、8、12回）		
成績ターゲット区分	■ 成績ターゲット：能力開発の目標ステージとの対応 3 発展期 ～ 4 定着期		
科目概要・キーワード	危機管理に関する専門的な問題解決のために必要な知識やスキルを身に付けるための指導を行います。学生個人のキャリア形成にもつながるよう、学生自身が危機管理に関する具体的な		

	業務、資格などに関する専門的な研究を行い、実務教員が中心となり実践的な指導を行います。危機管理に関する知識や教養を養うだけでなく、危機管理において必須となるコーディネート、マネジメントに必要な調整能力を身に付けることを目標とします。ここでは、危機管理に関する実務について、各自が研究テーマを設定し事例分析を踏まえて実践的な指導を行います。 授業形式は演習形式により行います。なお、授業を補完・代替するためオンライン授業（ライブ型及びオンデマンド型）を取り入れます。 ■キーワード： 危機対処、警察、日本、米国、世界						
授業の趣旨	■ 副題 警察官ほか日本人として必要な「人間の軸」づくり ～危機対処の本質、日本と世界を理解する～ ■ 授業の目的 警察という危機管理業務に従事するに当り必要とする危機管理及び警察業務に関連する幅広い知識と教養を養う。同時に、読書力、作文力、会議での発言力を身に付ける。 ■ 授業のポイント 危機管理や警察活動に関連する課題本や配布資料を事前に読んで、感想文を提出すると共に討論を行う。						
総合到達目標	■ 危機対処及び警察業務に必要な幅広い知識と教養を養う。 ・ 危機対処に必要な価値観や考え方について説明できるようになる。 ・ 危機的状況における対応に必要な情報収集、初動対応、意思決定、対処活動などの基本を説明できるようになる。 ・ 米国との対比により、日本の治安と警察活動の特色を説明できるようになる。 ・ 日本にとって死活的に重要な国である米国の社会体質（人種差別、銃社会、地方自治、民主主義など）を説明できるようになる。 ・ 日本古代との対比において、危機管理業務が遂行されることとなる現代日本社会の特質を説明できるようになる。 ■ 読書力、作文力、会議での発言力を身に付ける。						
成績評価方法	■ レポート（感想文）4回（40%）：適用ルーブリックE1・F1・G1・I1・K1・M1 （評価の観点）課題本や配布資料の読書を基に、論理的で明晰な文章が書けているか、を中心に評価します。 （フィードバック方法）その都度添削して返還します。 ■ 授業参加度（発言等）（60%）：適用ルーブリックE1・F1・G1・I1・K2・L1・M1 （評価の観点）課題本や配布資料を読んだ上で、自分の意見を積極的・論理的に発言出来ているか、を中心に評価します。また、レポート非提出回は短文（感想文）の事前提出を求め、演習準備の状態を確認します。 （フィードバック方法）授業のその場で、フィードバックします。						
履修条件	特にありません。但し、警察官や警察職員を志望していること、又は志望対象職業の一つとしていることが望ましい。						
履修上の注意点							
授業内容	各回の演習の実際については、研究生の能力、要望、研究の進度等を勘案して、柔軟に対応します。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th><th>内容</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td> ①授業テーマ 日本大学アメフト問題（1） ②授業内容 本件についての事前配布資料を基に、本件の反省と教訓（何時誰がどのように対応すれば良かったのか）について検討する。全員で時系列に沿って所見を述べ合う。（E1・F1・G1・I1・K1・K2・L1・M1） ③予習（210分） 事前配布資料を読んで、何時誰がどのように対応すれば良かったか及びその理由について、レポートを作成して当日提出する。 ④復習（30分） 授業を振り返り、授業の内、自分で重要であると考ええるポイントとこれに対する自分の感想をノートにまとめる。 </td></tr> <tr> <td>2</td><td> ①授業テーマ 日本大学アメフト問題（2） ②授業内容 本件についての事前配布資料を基に、何故、在るべき対処が出来なかったのか、危機的状況で適切に対処するために必要な価値観や考え方は何かについて討議する。全員で所見を述べ合う。（E1・F1・G1・I1・K2・L1・M1） 担当教員の実務経験を踏まえて、危機対処で陥り易い陥穽について説明します。 </td></tr> </tbody> </table>	回	内容	1	①授業テーマ 日本大学アメフト問題（1） ②授業内容 本件についての事前配布資料を基に、本件の反省と教訓（何時誰がどのように対応すれば良かったのか）について検討する。全員で時系列に沿って所見を述べ合う。（E1・F1・G1・I1・K1・K2・L1・M1） ③予習（210分） 事前配布資料を読んで、何時誰がどのように対応すれば良かったか及びその理由について、レポートを作成して当日提出する。 ④復習（30分） 授業を振り返り、授業の内、自分で重要であると考ええるポイントとこれに対する自分の感想をノートにまとめる。	2	①授業テーマ 日本大学アメフト問題（2） ②授業内容 本件についての事前配布資料を基に、何故、在るべき対処が出来なかったのか、危機的状況で適切に対処するために必要な価値観や考え方は何かについて討議する。全員で所見を述べ合う。（E1・F1・G1・I1・K2・L1・M1） 担当教員の実務経験を踏まえて、危機対処で陥り易い陥穽について説明します。
回	内容						
1	①授業テーマ 日本大学アメフト問題（1） ②授業内容 本件についての事前配布資料を基に、本件の反省と教訓（何時誰がどのように対応すれば良かったのか）について検討する。全員で時系列に沿って所見を述べ合う。（E1・F1・G1・I1・K1・K2・L1・M1） ③予習（210分） 事前配布資料を読んで、何時誰がどのように対応すれば良かったか及びその理由について、レポートを作成して当日提出する。 ④復習（30分） 授業を振り返り、授業の内、自分で重要であると考ええるポイントとこれに対する自分の感想をノートにまとめる。						
2	①授業テーマ 日本大学アメフト問題（2） ②授業内容 本件についての事前配布資料を基に、何故、在るべき対処が出来なかったのか、危機的状況で適切に対処するために必要な価値観や考え方は何かについて討議する。全員で所見を述べ合う。（E1・F1・G1・I1・K2・L1・M1） 担当教員の実務経験を踏まえて、危機対処で陥り易い陥穽について説明します。						

	③予習（120分） 事前配布資料を読んで、何故、在るべき対処が出来なかったのかについて、よく考えておく。 ④復習（120分） 授業を振り返り、授業の内、自分で重要であると考えポイントとこれに対する自分の感想をノートにまとめる。
3	①授業テーマ 伊藤哲郎著『国家の危機管理』（1）第1～2章 ②授業内容 本書について、全員でそれぞれ論点に沿って所見を述べ合う。（E1・F1・G1・I1・K1・K2・L1・M1） ③予習（210分） 本書第1～2章を読んで、レポート（感想文）を作成して当日提出する。 ④復習（30分） 授業を振り返り、授業の内、自分で重要であると考えポイントとこれに対する自分の感想をノートにまとめる。
4	①授業テーマ 伊藤哲郎著『国家の危機管理』（2）第3～4章 ②授業内容 本書について、全員でそれぞれ論点に沿って所見を述べ合う。（E1・F1・G1・I1・K1・K2・L1・M1） ③予習（210分） 本書第3～4章を読んで、レポート（感想文）を作成して当日提出する。 ④復習（30分） 授業を振り返り、授業の内、自分で重要であると考えポイントとこれに対する自分の感想をノートにまとめる。
5	①授業テーマ 伊藤哲郎著『国家の危機管理』（3）第5～6章 ②授業内容 本書について、全員でそれぞれ論点に沿って所見を述べ合う。 前二回の授業と合わせて、内閣危機管理監という危機管理の最重要部署で勤務した著者が考える危機管理の要諦を説明できるようになる。（E1・F1・G1・I1・K1・K2・L1・M1） ③予習（210分） 本書第5～6章を読んで、レポート（感想文）を作成して当日提出する。 ④復習（30分） 授業を振り返り、授業の内、自分で重要であると考えポイントとこれに対する自分の感想をノートにまとめる。
6	①授業テーマ 東日本大震災の危機管理上の教訓 ②授業内容 担当教員の実務経験を踏まえて、東日本大震災における福島第一原発（古田所長）における対応について、カルロス・ゴーン日産社長（当時）、新浪剛史ローソン社長（当時）、福島第二原発（増田所長）の対応とも対比しながら、危機対処上の教訓を講義します。研究生は、それぞれ自分の考えを述べ合い、危機対処に必要な価値観や考え方について説明できるようになる。（E1・F1・G1・I1・K2・L1・M1） ③予習（120分） 東日本大震災発生時の、カルロス・ゴーン日産社長（当時）、新浪剛史ローソン社長（当時）、福島第二原発の対応について調べる。 ④復習（120分） 授業を振り返り、授業の内、自分で重要であると考えポイントとこれに対する自分の感想をノートにまとめる。
7	①授業テーマ 拙著『米国の治安と警察活動』（1）第1、2章 ②授業内容 本書について、全員でそれぞれ論点に沿って所見を述べ合う。（E1・F1・G1・I1・K1・K2・L1・M1） 担当教員の実務経験を踏まえて、米国の銃社会の実態を説明します。 ③予習（210分） 本書第1、2章を読んで、レポート（感想文）を作成して当日提出する。 ④復習（30分）

	授業を振り返り、授業の内、自分で重要であると考えポイントとこれに対する自分の感想をノートにまとめる。
8	①授業テーマ 拙著『米国の治安と警察活動』（2）第3、4章 ②授業内容 本書について、全員でそれぞれ論点に沿って所見を述べ合う。 担当教員の実務経験を踏まえて、米国の「粗い司法」の実態を説明します。 前回授業と合わせて、米国との対比で、日本の治安と警察活動の特色を説明できるようになる。（E1・F1・G1・I1・K1・K2・L1・M1） ③予習（210分） 本書第1、2章を読んで、レポート（感想文）を作成して当日提出する。 ④復習（30分） 授業を振り返り、授業の内、自分で重要であると考えポイントとこれに対する自分の感想をノートにまとめる。
9	①授業テーマ 上杉忍著『アメリカ黒人の歴史』（1）第1～3章 ②授業内容 本書について、全員でそれぞれ論点に沿って所見を述べ合う。（E1・F1・G1・I1・K1・K2・L1・M1） ③予習（210分） 本書第1～3章を読んで、レポート（感想文）を作成して当日提出する。 ④復習（30分） 授業を振り返り、授業の内、自分で重要であると考えポイントとこれに対する自分の感想をノートにまとめる。
10	①授業テーマ 上杉忍著『アメリカ黒人の歴史』（2）第4～6章 ②授業内容 本書について、全員でそれぞれ論点に沿って所見を述べ合う。 前回授業と合わせて、米国における黒人差別と人種問題を理解し、これを基礎として、米国社会の特質と日本社会の特質、これが両国の警察活動にもたらす違いについて説明できるようになる。（E1・F1・G1・I1・K1・K2・L1・M1） ③予習（210分） 本書第4～6章を読んで、レポート（感想文）を作成して当日提出する。 ④復習（30分） 授業を振り返り、授業の内、自分で重要であると考えポイントとこれに対する自分の感想をノートにまとめる。
11	①授業テーマ 研究方法の検討 ②授業概要 これまでの授業を踏まえ、今後の研究方法について、各自が報告し、研究生全員で検討を行う。（E1・F1・G1・I1・K2・L1・M1） ③予習（120分） 自分の研究方法について検討し、報告のための準備を行う。 ④復習（120分） 授業を踏まえ、研究方法に関し再度検討を行う。
12	①授業テーマ 暴力団情勢 ②授業内容 担当教員の実務経験を踏まえて、山口組を中心とした暴力団情勢について講義します。講義内容を基に、社会における暴力団の存在理由と消長の要因について、議論を行う。暴力団という社会現象の背景・特質、これと中央権力が存在しない世界との類似性について説明できるようになる。（E1・F1・G1・I1・K2・L1・M1） ③予習（120分） 配布資料を読んで、感想をまとめる。 ④復習（120分） 授業を振り返り、授業の内、自分で重要であると考えポイントとこれに対する自分の感想をノートにまとめる。
13	①授業テーマ 「古事記」（1）国生み、天孫降臨 ②授業内容 事前配布資料（古事記の一節の原文及び現代語訳）を基に、古事記で描かれた古代日本の姿に触れる。（E1・F1・G1・I1・K2・L1・M1）

	③予習（120分） 事前配布資料（古事記の一節の原文及び現代語訳）を読んでおく。 ④復習（120分） 授業を振り返り、授業の内、自分で重要であるとするポイントとこれに対する自分の感想をノートにまとめる。
	14 ①授業テーマ 「古事記」（2）神武東征 ②授業内容 事前配布資料（古事記の一節の原文及び現代語訳）を基に、古事記で描かれた古代日本の姿に触れる。（E1・F1・G1・I1・K2・L1・M1） ③予習（120分） 事前配布資料（古事記の一節の原文及び現代語訳）を読んでおく。 ④復習（120分） 授業を振り返り、授業の内、自分で重要であるとするポイントとこれに対する自分の感想をノートにまとめる。
	15 ①授業テーマ 北原白秋作詞、信時潔作曲 交響曲『海道東征』 ②授業内容 交響曲『海道東征』を聴取し、ここに現れた古代日本人の世界観について議論をする。 前二回の授業と合わせて、古代日本の神話の骨子を説明できるようになる。（E1・F1・G1・I1・K2・L1・M1） ③予習（120分） 事前配布資料（『海道東征』歌詞と現代語訳）を読んでおく。 ④復習（120分） 授業を振り返り、授業の内、自分で重要であるとするポイントとこれに対する自分の感想をノートにまとめる。
関連科目	危機管理基礎演習Ⅱ（RMGT2602）・危機管理特殊研究1（RMGT4541）・危機管理特殊研究3（RMGT4543）・危機管理特殊研究4（RMGT4544） 危機対処に有益な世界観を知るために、インテリジェンス論1（RMGT3527）・インテリジェンス論2（RMGT3534）とも関連します。
教科書	（下記の教科書は、図書館に収蔵されている。） ・伊藤哲郎著『国家の危機管理』（ぎょうせい、2014年） ・茂田忠良『米国の治安と警察活動』（警察政策学会、2017年）（教員が供与する） ・上杉忍著『アメリカ黒人の歴史』（中公新書、2013年）
参考書・参考URL	・佐々木知子『日本の司法文化』（文春新書、2000年） ・溝口敦著『抗争』（小学館101新書、2012年）
連絡先・オフィスアワー	■ 連絡先 開講時に告知します。 ■ オフィスアワー 水曜3限。それ以外の時間については、メール等で事前にアポイントをとることにより研究室で対応します。
研究比率	■ 危機管理領域との対応 災害マネジメント10%；パブリックセキュリティ70%；グローバルセキュリティ10%；情報セキュリティ10% ■ 危機管理と法学のバランス 危機管理学95%；法学5%

